

災害は、 すぐそこで 起こっている。



日本赤十字社長野県支部で活動する災害医療コーディネーターチーム(静岡赤十字病院)

その寄付で、守れる「いのち」がある。その寄付で、備える「ちから」ができる。

災害 救護

いつどこで起こるかわからない災害への対応



令和元年台風第19号

災害救護活動

10月12日に伊豆半島に上陸した「令和元年台風第19号」は、静岡県内をはじめ、全国各地に大きな被害をもたらしました。日本赤十字社静岡県支部では、直ちに県内の被災状況の確認に努めたところ、県内の医療機関は機能しており、救護班などの派遣を要する医療ニーズはありませんでした。一方で、浸水などにより被災されたみなさまには、各市区町を通じて「災害救援品」をお届けするとともに、義援金の受付を実施。この義援金につきましては、大変多くのみなさまからご協力をいただきました。本当にありがとうございました。また、特に大きな被害を受けた長野県に、こころのケア班などを派遣しました。

静岡県支部の具体的な取り組み

災害救援品の備蓄と配付

静岡県支部では、毛布・緊急セット・タオルセット・下着セットなどの救援品を県内各地に備蓄しており、台風第19号の際にも被災されたみなさまにお届けすることができました。



静岡市
地区本部清水地区へ
災害救援品を
届ける様子

こころのケア班などを派遣

台風第19号の被災地には、全国の日赤各支部から救護班やこころのケア班などを派遣しました。静岡県支部も、長野県支部の要請を受け、静岡赤十字病院から災害医療コーディネイトチーム*を、また、浜松赤十字病院からこころのケア班を派遣。こころのケア委員は、長野市内の避難所で地元の関係機関と連携しながら、被災者へのこころのケア活動を行いました。



*被災地の保健医療ニーズを把握し、救護班の活動などに関して、医療の専門的観点から災害対策本部などでの調整を担う。

もし、静岡県で地震などの大規模災害が起きたら…

日本赤十字社では、全国規模での救護活動に対応する体制を整えています。静岡県内はもちろん、本社及び他県からも救護班などが派遣され、救護活動にあたります。

減災

いつどこで起こるかわからない災害への備え

そのとき被害を最小限に減らすためには、一人ひとりの「備え」が必要です。赤十字のセミナーなどを活用してみませんか？



自治会・町内会で

☑ 赤十字減災セミナー

静岡県支部では、災害による被害を減らすための知識や技術を学べる「赤十字減災セミナー」を開催しています。自治会・町内会など団体での申し込みが可能です。身近なものを使ったけがの手当や避難所で役立つ「毛布を使ったガウン（90分コースの場合）」などの方法が学べます。



☑ 炊き出し出張講座

自治会・町内会からの「炊き出しを学びたい」という声に応えるため、平成29年度から地域赤十字奉仕団員が中心となって、自治会・町内会を訪問し、包装食袋を使った炊き出しの知識や技術を広めています。



学校で

【防災教育MENU】一例

- 「赤十字減災セミナー」
災害時の食について学ぶ
- 「炊き出し」
一次救命処置*を学ぶ ※心肺蘇生とAEDを用いた除細動など
- 「赤十字BLS入門講座」
- 「防災コミュニケーションワークショップ」



近年、学校での「防災教育」のニーズが高まっています。未来を担う子どもたちに、自然災害の正しい知識を伝え、自分や周囲のいのちを守る力を備えてもらうことを目的に取り組んでいます。地域赤十字奉仕団員や赤十字救急指導員などのボランティアが中心となり、子どもたちに防災や減災の大切さを伝えています。

みなさまからお寄せいただく赤十字活動資金によって、セミナーや講習に必要な器材の整備や、町内や学校などに派遣するボランティアの育成を行っています。

みなさまのご支援が、町内や学校での減災の取り組みを支えています。

つづける力をください。

明治22年に日本赤十字社静岡委員会を創設して以来、130年目を迎えることができました。

長きにわたり、いのちを救う活動を継続できたのは、赤十字の活動をご支援いただくみなさまのおかげです。

今後も赤十字の活動にご協力をお願いいたします。

災害救護活動



災害時にいち早く救護班などを派遣し、救護活動を実施。そのために訓練・研修を通じた人材育成、機材整備、救援品備蓄などを行い、常に災害に備えています。

赤十字講習



苦しんでいる人を救いたいという思いに基づき、健康で安全な生活を送る具体的な知識と技術を身につけることを目的に各種講習を行います。

赤十字ボランティア



赤十字の活動はボランティアのみなさんに支えられています。各種奉仕団があり、災害時だけでなく、日常生活においても特技や技術を活かし、地域で活動しています。

国際活動



世界的ネットワークを活かして、紛争や自然災害による被災地への緊急支援、中長期的な復興支援を行うための職員派遣や事業を行います。

医療事業・看護師養成



大切ないのちを救うため、救急医療や地域に根ざした医療を行います。そのために必要な赤十字精神をもつ看護師を養成します。

血液事業



病気やけがの治療などで輸血を必要とする人々を救うため、安全な血液製剤を24時間体制で医療機関へお届けします。

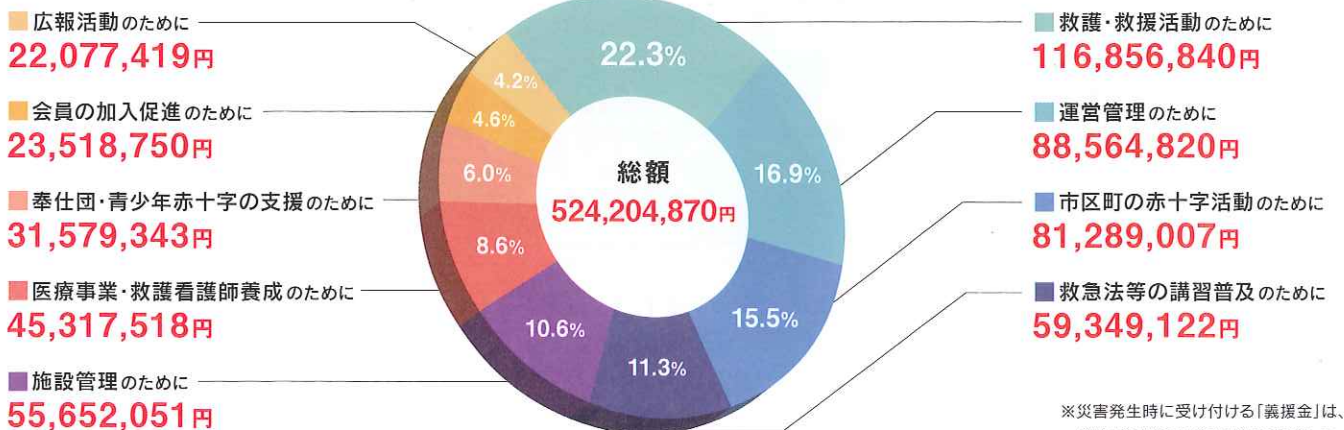
青少年赤十字



幼稚園から高等学校までの教育現場で、自ら「気づき、考え、実行」できる学びの機会を提供します。そして、より多くの人に赤十字を知ってもらうために取り組んでいるのが、学校などで使える教材づくり。令和元年10月に、県内すべての公立図書館などへ、絵本「ハートラちゃんのおはなし」を寄贈しました。

活動資金の用途

平成30年度にみなさまからお寄せいただいた活動資金は、下記のとおり活用させていただきました。ご協力ありがとうございました。



※災害発生時に受け付ける「義援金」は、全額が配分委員会を通じて被災した方に届けられます。